製鐵所官民合同反對運動

一、反對運動の概要（二月一日ー二月二十日迄）

舊社民黨系勞働團体の反對運動は遂に全從業員の支持を受け、且つ數回に亘りて各工場別選出從業員代表者を多數陳情の爲上京せしめた事は、連日の職場大會其他の宣傳と相俟つて完全に反對氣勢を全工場に横溢せしめ、且つ漸次白熱化して行つた反對氣勢は、單に勞働條件を維持するのみに止まらず、根本的に合同案絶對反對を叫ぶことゝなつたのである。

かくて高潮せる反對運動の完全なる統制と、加ふるに舊勞大黨並に左翼の策動に備ふる必要からして、從來の職工總代全員協議會や舊社民系四派對策委員會にては其の統制不可能となつたので、新に各工場毎に統制委員を選出せしめ

財團法人 協調會福岡出張所

之を以て中央統制委員會を設くると共に、全從業員の反對運動鬪爭主体として、舊社民系勞働團体と從業員との合体した製鐵官民合同反對同盟會が組織（二月八日）されたのである。爾來統制ある地元の運動と中央に於ける陳情團の活動とは互に密接なる連絡を保ち、且つ一面舊勞大黨並に左翼の策動に對抗せざるを得なかつた舊社民黨指導下の反對運動は二月十四日の會議に於て遂に最後の手段としての能業斷行を決議するに至つたのである。以來表面的には嵐の前の靜さに似た狀態に見受らるゝも、合同案の提出期近づくと共に著しく緊張化しつゝあり。

一方工場内に勢力を有せざる舊勞大黨に於ては演說會の開催、アジビラの撒布等專ら言論並に文章戰に全力を傾注し毎々舊社民黨の反對運動を攻擊して從業員との間を離反せ

財團法人 協調會福岡出張所